

学会記事

◎第9回理事会(34.2.24) 出席者：田中会長，本間，富樫副会長，尾之内，藤村，田中，八十島，小野，川勝，西嶋，末森専務の各理事。報告事項：2月22日までの各種委員会，その他の事項，会計，刊行物の各報告。協議事項：(1) 通常総会および年次学術講演会を5月28日(土)，29日(日)とし，懇親会を28日12～13時，いずれも早稲田大学とする。見学会は30日(月)東京高速道路および地下鉄工事，京浜工場，砂町下水処理場および房総半島一周(1泊)を予定する。(2) 学術会議選挙中央管理委員会候補者には本間 仁，小野竹之助両氏を推薦すること。(3) 委員委嘱 1) 耐震工学委員会；委員追加一那須信治氏，2) 災害対策委員会；幹事追加一丸山文行氏，3) 文献調査委員会；委員交代一國広 哲 男氏の後任に丹 泰美氏，4) 会誌編集委員会；委員交代一諫山 廉氏の後任に齋藤 徹氏，5) 論文集編集委員会；幹事交代一徳平 淳氏の後任に西脇威夫氏，6) 土木技術者資格研究委員会；委員長 鈴木雅次，委員 平山復二郎，田中茂美，富樫凱一，尾之内由紀夫，比企 元，久保義光，山内一郎，中安米蔵，奥田教朝，佐藤 肇，和仁達美，清野 保，石橋多聞，篠原 清，安芸皎一，武井 篤，藤森謙一，大塚全一，増山辰夫，高畑政信，西松醇厚，柿野二三郎，西嶋国造の諸氏。(4) 土木賞賞金は従来の倍額とする。(5) 35年度下半期から正員会費1200円に改正案を常議員会に提案すること。特別会員会費については再検討すること。(6) 会誌広告料金改正を承認。(7) a) 藤原賞には本年度は推薦しないこと。b) 朝日科学奨励金応募については研究機関である常置委員会に連絡すること。c) 会誌編集委員会ははじめ他の委員会においても業界からの委員が少ないようであるから改組に当たって増員を考慮すること。(8) 1月中の会員入退会を承認(別掲)。

◎各種委員会

1. 災害対策研究委員会第2回幹事会(35.2.1) 出席者：岡田委員長，三木，渡辺(代大河原)，安芸(代) 箕輪，森本(代久田)，君島(代北原)の各幹事。議事：1) 幹事を追加；丸山文行君(科学技術庁資源局専門職)，2) 伊勢湾台風被害報告書；本書の刊行は会誌編集委員会で編集することになり，本委員会で収集した資料を提供すること。3) 次回幹事会の討議予定事項；幹事は入手の資料にもとづいて考えられる被災の原因と，その技術的対策を持寄り問題点を検討すること。4) 事務上必要な書類の作製，予算の都合上事務局は簡単な記事の複写程度とし，図面，写真の複写はなるべく所属官公庁その他で調整してもらうこととする。5) 資料提供依頼；気象関係(伊勢湾台風)資料は委員がないので気象庁および東

京都に依頼すること。6) 次回幹事会予定；3月7日(月)14時とする。

2. 第1回土木賞委員会(35.2.3) 出席者：新井，五十嵐，内山，加納，佐藤(代海保)，柴田，田中 清，谷藤，寺島(代井前)，沼田，水野，安宅，横道(代千葉)，四野宮，米谷，庄司，本間，富樫，八十島の各委員。議事：1) 委員長に沼田委員を決定，2) 委員会の構成と運営方針を決定，3) 審査方法および作業日程を決定。

3. 第9回文献調査委員会(35.2.4) 出席者：樋口委員長，日野，土屋(代田中)，南雲，片山，国広(代丹)，高野の各委員，佐藤幹事。議事：1) 45巻3号登載の抄録および目録の選定。2) 各種アンケートにつき回答。3) カード分類につき担当委員を決める。4) その他。

4. 水理委員会(35.2.5) 出席者：安芸委員長，吉川幹事長，岡田，林，本間，伊藤，坂本，嶋，高畑，竹内，寺島，米元，大坪，阪部，岩崎，石原(代岩佐義朗)，岩垣および矢野(代石原安雄)，田中 清，田中 茂，久宝の各委員。議事：1) 水理学研究発表会の課題および期日を次のようにきめた。

○35年度 1. 流出 2. サージング

期日，場所：土木学会通常総会前日 東京において講演申込：3月10日締切，原稿提出：4月20日

○36年度 1. 計測 2. Sedimentation 2) その他
1. 科学技術会議アンケートについて 2. 陸水分科会の水文学題目調査について

5. 第9回会誌編集小委員会(35.2.8) 出席者：田原委員長，田村委員。議事：1) 45巻3号会誌編集につき最終的打合わせを行った。2) 45巻2号口絵写真およびニュースの選定。3) その他。

6. 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会(35.2.10) 出席者：田中委員長，青木，成瀬，中村，平井，奥村，田原，村上，友永，埴田(代上野)，田中五郎(代西野)の各委員。西村，大宮，伊藤(学)，安藤，安浪，菊池，田島の各幹事。議事：1) 明石・鳴門橋梁設計規準試案について，特に設計荷重，建築限界等について。2) 溶接鋼鉄道橋設計示方書案について，SM 41とSM 50を1示方書にまとめ総則，材料，許容応力，設計計算方法について審議した。

7. 構造物の耐震設計研究委員会第5回幹事会(35.2.15) 出席者：岡本副委員長，高橋(代金原)委員，久保幹事長，伊藤，池田，大地，後藤 巖，小寺，河野，笹沼，白石，土居，野沢，伯野，針ヶ谷，宮崎，森本(代御巫)，渡辺の各幹事。議事：資料の整理方針につき審議，今年度は暫定的にできる範囲で取りまとめることにし，次回までに担当幹事により各担当の地震につきリストをつくる事に決定した(資料：橋梁の被害，国内および外国における耐震設計の規定) 次回は3月4日に予定した。

8. 会誌編集委員会土木賞打合せ(35.2.18) 出席者：

田原委員長，八十島編集部長，奥村，大西，寺島（代遠山），足立，米沢，都，難波，堺，海保，吉田の各委員。深谷幹事。議事：1) 土木賞委員会へ提出する論文につき学会誌編集委員会としての推せん文の作成につき打合わせた。2) その他。

9. 第9回会誌編集委員会 (35.2.22) 出席者：田原，井口正副委員長，八十島編集部長，後藤（東北），田中（関西），山崎（西部）各地方委員，奥村，樋口，申村，南部，齋藤，田村，難波，堺，吉田，寺島（代井前）の各委員。議事：1) 投稿原稿審査報告。2) 新視受付原稿審査委員の決定。3) 依頼原稿状況およびその内容について。4) 諫山委員転勤につき後任に齋藤 徹氏を依頼した。5) 編集委員の増加について。6) 朝日賞，藤原賞について。7) 44 卷 4 号登載原稿を次のとおり予定した。

近藤・小松・松永：辰巳橋の設計と製作について，中嶋・雅野・松井：大仁橋移設工事について，河角・石井・中西：吉野川における分割流域の単位図について，中谷・小林：近鉄名古屋線の軌間変更工事について，藤田峻五：国鉄における用地取得問題

◎その他の報告

1. 第8回国際水理学会議報告懇話会 (35.2.5) 昨年8月24～31日モントリオールで開催の第8回国際水理学会議に代表として出席されたうち安芸委員長，大坪教授，田中 茂教授，岡田電研職員により同会議の様子が報告された（詳細は次号に報告）。

2. 第1回原子力研究総合発表会(35.2.11～13)3日間神田，学生会館において開催

発表論文 279 編 土木関係 8編

岩井重久(京大)，上野忠男(東電)，角谷省三(荏原製作所)，鶴尾 昭(鹿島建設)各2編宛。

聴講者 延べ約 2000 人(3日間)当学会は幹事学会としてC会場(核燃料，計測等)受持

支部だより

◎北海道支部

研究発表会および講習会 期日：昭和 35 年 2 月 22 ～23 日 場所：札幌市民会館 演題および講師次のとおり。

(発表会) 35.2.22

室蘭港航路深溝工事について	室蘭開発建設部	○織田 敏夫 春田 精二
室蘭港西 1 号埠頭—7.5m 岸壁土圧測定について	〃	織田 敏夫 春田 精二
燃焼式による合材中のアスファルト量測定方法について	土木試験所	小山 道義 河野 文弘
函館港第 2 岩壁延伸工事について	国鉄工事局	○桑島 隆 西脇 等 安味 真光 菊地 広
石狩川伊納の流出(第 1 報)	北大工学部	○中尾欣四郎 岸 力
ケーソン構造物の実用的近似解法とその実験について	室蘭工大 道庁土木部港湾課	能町 純雄 石倉 建治
双曲放物線面の図学的諸性質と構造物について	北大理学部	沢田 隆亮
札幌市内に建設中の跨線橋について「特に跨線合成格子桁について」	札幌開発建設部	小西 輝久

アスファルト乳剤による路面安定処理工の 1 例について	札幌開発建設部	北村 幸治
周辺が固定せる直交異方性楕円板の曲げについて	室蘭工大	能町 純雄 〇尾崎 慎
合成樹脂のチイベルの方学的挙動について	室蘭工大 室蘭製作所	〇能町 純雄 〇阿部 慎 青木 弘
岩清水発電所の隧道工事について(蛇紋岩中を通過する隧道の施工に関する考え方と実施例)	北電土木部	若月 正実
銅路港中央埠頭工事について	銅路開発建設部	〇城所 正雄 田中 敬幸 高沢信次郎
北大衛生工学科の学年運動について	北大工学部	林 猛雄
石狩川橋架設工事報告(第一期工事)	札幌土木現業所	菊地 康一 吉谷 浩三
金山ダム水理模型実験—水相と形状に関する実験について	土木試験所	〇内山 郁男 広田 道義 小山 文弘 河野 貞一 〇三浦 哲男 松本 哲男
アスファルト合材のスリヘリ抵抗性と安定性について	〃	〇高岡 正樹
斜板橋の解析ならびに応力特性について	〃	岡本 北海
厚岸フェリー工事について	道路公団	〇大立 勲 高岡 正樹

(講習会) 35.2.23

アスファルトのレオロジーに関する一性質について	北大教授・工博	坂倉 忠三
北海道の気象災害	札幌管区気象台予報官	小野寺晶夫
電子計算機の話(主としてその利用について)	北大教授・工博	片山 辰雄

◎関西支部

(1) 新しい工事材料に関する研究会 (昭 35.2.1, 大阪建設会館)

1) 展示材料と講師：

①ガードレール	日本鋼管KK	加工品部第一課長	齊藤 外吉
②ガードレール	中之島製鋼所KK	技術部 参与	本城 信治
③ガードケーブル	KK神戸製鋼所	第三設計部 圧延機課長	名見耶 亘
④メタルフォーム	八幡メタルフォームKK	本社常務取締役	草野 美男
⑤コルゲートパイプ	富士製鉄KK	本社第二販売部調査役	宇井 允文
⑥コルゲートパイプ	川崎製鉄KK	同社千葉製鉄所土木建築部課長	三木 広信

2) 研究会の運営：

以上各社の講師は小西幹事長司会で，それぞれの展示材料について順次映画を交えて説明ののち，種々活発な質疑応答があつてきわめて有意義に終了した。

3) 参加費：無料 4) 参加者：112 名

(2) 工事研究会 (昭 35.2.18, 大阪建設会館)

1) 題目：第二阪神国道の計画と施工について

2) 講師：建設省近畿地方建設局第二阪神国道工事々務所長 田坂栄美氏

3) 研究会の運営：

講師は井部幹事の司会で写真，図表，スライド等により詳細な説明があり，これに対して質疑応答があつてきわめて有意義に終始した。

4) 参加費：無料 5) 参加者：93 名

(3) 第 10 回幹事会 (昭 35.2.18, 大阪建設会館)

出席者：小西幹事長，石田，伊藤，井部，北村，後藤，中川，八木の各幹事

(4) 土木賞候補論文支部推薦打合せ (昭 35.2.29 大阪建設会館)

出席者：井部勇一，大野 宏，倉田宗章(代水野俊一)，米谷栄二，小西一郎，畑中元弘，八木健二(代近藤和夫)

◎西部支部

冬季研究発表会 (昭 35.2.12, 福岡県歯科医師会館大会
議室) : 参加者 141 名

- | | | | | |
|--|-----------------------------|----------------------------------|-----------------|-----------------------|
| (1) ボタの風化について | 九州大学
〃 | 水野 高明
徳光 善治
〇川上 浩 | 九州大学
〃 | 〇山内 豊
石堂 稔 |
| (2) 諸塚ダム (Ⅱ型ホロー グラチテー
ダム) の温度計算と実測値について | 九州電力KK | 源古 孝男 | 建設省九州
地方建設局 | 村上 良九 |
| (3) 軟弱地盤におけるゴーンペネトロメー
ター試験について | 九州大学 | 〇内田 一郎
松本 健三 | 運輸省八代港
工事事務所 | 内田 政雄
〇永田 幸治 |
| (4) 鋼斜桁橋の載荷試験について | 熊本大学
〃
建設省九州
地方建設局 | 吉村 虎蔵
平井 一男
柳沢 誠
〇江崎 正敏 | 宮崎大学 | 藤本 広 |
| (5) 円形梁を有する構造物の解法について
(その2) | 九州大学
〃 | 〇山本 宏
坂田 政彦 | 九州大学 | 徳光 善治 |
| (6) ソイルセメント層の早期交通開始につ
いて | 九州大学
〃 | 〇山内 豊
石堂 稔 | 九州大学 | 徳光 善治 |
| (7) アスファルト舗装工事における品質
の変動状況について | 建設省九州
地方建設局 | 村上 良九 | 九州大学 | 徳光 善治 |
| (8) 八代港—9m 岸壁の基礎圧密につ
いて | 運輸省八代港
工事事務所 | 内田 政雄
〇永田 幸治 | 九州大学 | 徳光 善治 |
| (9) フライアッシュ混入のソイルセメント
について | 宮崎大学 | 藤本 広 | 九州大学 | 水野 高明
〇渡辺 石川
遠夫 |
| (10) かたねりコンクリートのコンシステン
シー測定について | 九州大学 | 徳光 善治 | 九州大学 | 水野 高明
〇石川 遠夫 |
| (11) プレテンション桁のボンドに関する実
験的考察 | 九州大学
〃 | 水野 高明
〇渡辺 石川
遠夫 | 九州大学 | 水野 高明
〇石川 遠夫 |
| (12) 河口附近の漂砂について | 宮崎大学 | 吉高 益男 | 九州大学 | 水野 高明
〇石川 遠夫 |
| (13) PC 桁のクリープ測定について | 九州大学
〃 | 〇石川 遠夫 | 九州大学 | 〇上田年比古
中野 昭 |
| (14) 矩形流域における到達時間とその時刻
の流量について | 九州大学
〃 | 〇上田年比古
中野 昭 | 九州大学 | 〇上田年比古
中野 昭 |

編集
後記

陽春 3 月を迎えて、会
員の皆様も冬期から本格
的な施工期に入りお忙し
いことでしょう。本年は Golden
Sixty といわれ、土木界もますます
さかんなことが予想されます。

編集委員会は毎月 1 回開いて、熱
心に学会誌の編集を 3, 4 時間かけ
て討議の上決定しています。2 月の
委員会には、東北、関西および西部
支部の各委員も出席して下さいまし
てまことに盛況でありました。

編集内容については、土木工学そ
のものが、複雑多岐にわたり、その
sub-division がおのおの学会および
会誌を持つているので、その会誌と

のバランス等を考えて学会誌の本質
を失なわないように注意をしていま
す。また学会誌の中の広告が、2 月
の委員会ですべて取り上げられ、2 月
の委員会で話題となりました。広告
は約 30 ページにおよんでいます、
この広告の内容を最近の他の雑誌に
見られるような PR のページとして
会員に役立つ資料を広告主から提供
してもらうようにしようという提案
がありました。これはなかなかよい
アイデアなので早速研究をして、
実現をはかりたいと思つています。

また編集委員も各方面から集まっ
ていますが、いささか学校、官庁関
係が多いので、この傾向を是正のた
め、民間関係の委員の参加を求め

計画があります。

次号には辰巳橋の設計と製作、大
仁橋の移設工事、吉野川における分
割流域の単位図、近鉄名古屋線の軌
間変更工事などの報告や国鉄におけ
る用地取得問題、伊勢湾台風とミオ
止工法などの記事を用意いたしてお
ります。

最後に、前号でもお願い致しまし
たが、学会誌の編集方針などにつ
きまわって、われわれも前述のよう
にいろいろと考えてはおりますが、会
員の皆様の御高見を頂ければ幸いで
す。最後に皆様の各方面にわたる盛
んな活動、研究の労作の御投稿を一
そうお願い致します。(難波・記)

会員入退会について (昭和 35 年 2 月 29 日現在)

1. 入 会	105 名 (正 43, 学 54, 特 1 C 1, 特 2 1, 特 3 6)
2. 退 会	12 名 (正 9, 学 3)
3. 転 格	0

会員現在数 (昭和 35 年 2 月 29 日現在)

名誉員	賛助員	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2	特 3	正員	学生員	増加	計
27	30	17	17	77	110	104	13 532	1 133	93	15 047

正員	高 丘 昭 吾 君	井本建設KK	昭和 35 年 2 月 6 日 死去	30 才
正員	西 奥 善 雄 君	川崎重工業KK	昭和 34 年 12 月 死去	29 才
正員	西 池 氏 寛 君	東京都交通局工務部軌道課	昭和 35 年 1 月 5 日 死去	36 才

昭和 35 年 3 月 15 日印刷
印刷者 大 沼 正 吉
発行者 末 森 猛 雄
定 価 100 円

昭和 35 年 3 月 15 日発行
印刷所 株式会社 技 報 堂
発行者 社団法人 土 木 学 会
振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 45 卷 第 3 号
東京都港区赤坂溜池 5 番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
電話 (351) 5130・5138・5139 番

三菱の

鉄骨 橋梁 水門 鉄管



三菱造船株式会社

本社 東京都千代田区丸の内2の4 (三菱本館)
電話 東京 (281) 3111・5111・0331 (鉄構課)

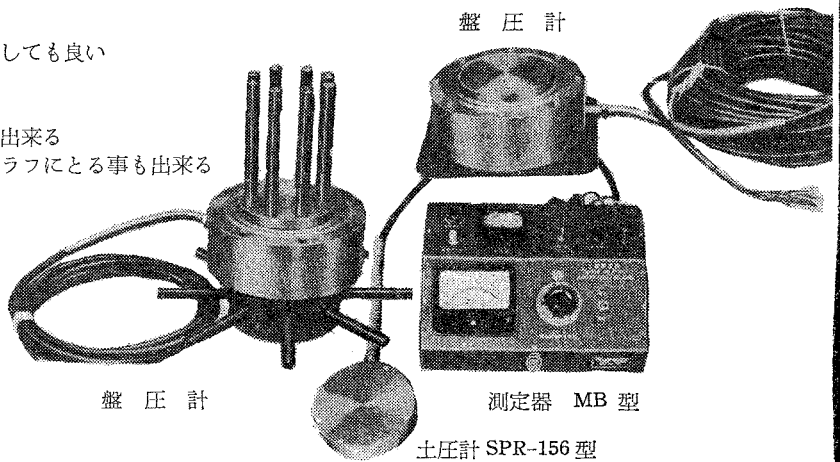
土圧計、盤圧計には坂田式を!

特 徴

- ① 価格が低廉である
- ② 測定値が安定である
- ③ 耐久性が大である
- ④ 多少の偏心荷重が作用しても良い
- ⑤ 温度の影響が少い
- ⑥ 遠隔測定が出来る
- ⑦ 動的にも静的にも測定出来る
又自記記録やオシログラフにとる事も出来る

営業品目

坂田式土圧計
 間隙水圧計
 傾斜計
 垂直計
 地圧記録器
 落石(地圧雪崩)予報器
 鋼板厚み計
 其他電気機構装置
 製作・修理・販売



坂田電機株式会社

本社・工場: 東京都杉並区荻窪2丁目48番地 電話 (391) 4652・(398) 0152
 保谷工場: 東京都北多摩郡保谷町上保谷上柳沢129の5 電話 田無 7 1 7